

# トホクのカボチャ栽培方法

発芽適温：25～30℃ 生育適温：20～25℃

土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；少ない

## 1. 作物特性

美味しい実を成らすには適切な生育段階での着果と、後半まで健全なつるを維持することがポイントです。着果を確実にするには早朝の人工授粉は欠かせません。後半までのつるもちにはうどんこ病などの防除が決め手です。

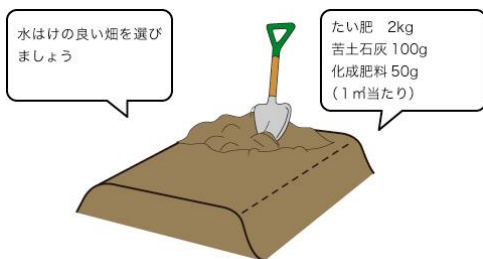
## 2. タネまき

直径 10～12cm のポットに約 2cm の深さにタネをまき育てます。本葉が出たら間引いて、ポットに 1 株にします。



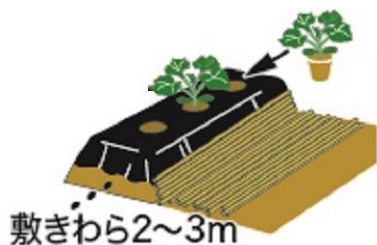
## 3. 植えつけ

カボチャは土質をあまり選ばず根も良く張り、肥料を吸収する力も旺盛ですから畑に肥料分が残っている場合や、多めに肥料を施したりすると花が咲いても果実が着かないつるボケになるので注意しましょう。



つるが長く伸びるのでつるを伸ばす場所として 2～3m 確保しておきます。苗は本葉 3～4 枚の頃に植えつけます。植え付けが遅れた老化苗は、その後の生育が劣るので注意しましょう。

株間は親づるだけを伸ばす栽培なら 50cm で、子づるを 2 本伸ばすなら 80cm～1m 位必要です。



植えつけた後、遅霜の恐れがあるときはホットキャップなどを利用します。

## 4. 栽培管理・収穫

つるを伸ばしたい方向に向けてやり、マルチから出る前にわらなどを敷いておきます。

親づる 1 本仕立ての場合、親づるをそのまま伸ばし、親づるから出る子づるはすべて摘み取ります。



8 節目までに咲いた雌花は株全体も弱るので摘み取ります。9～15 節目に咲いた雌花に人工授粉させると最もよい果実がとれます。1 番目の果実が着果した後は子づるの発生も弱まるのでそれ以降発生する子づるは摘除せずそのままにします。

### 摘芯の方法

イラストでは葉や子づるは省略してあります



#### 1～8節

子づるはすべて摘み取る。8節目までに咲いた雌花は大きくならないし株全体も弱るので摘み取る。

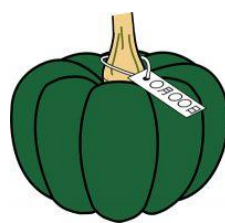
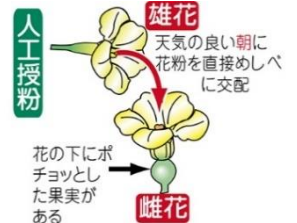
#### 9～15節

10節目目に咲いた雌花を下のよう人工授粉させると最もよい実が採れる。

#### 16節目以降

この部分でもよい実が採れる。また果実を大きくするために葉は 20 枚以上は必要。

果実を確実に成らせるために人工授粉を行います。人工授粉は早朝に行うのがポイントで、雌花が咲くかどうか毎日観察することが大事です。



人工授粉した雌花には交配した日を忘れないように日付ラベルなどをつけておくと、その後の収穫期の見極めに便利です。人工授粉してから 45～50 日頃から収穫できます。

収穫期が近くなると花梗部(ヘタの部分)がコルク化してきますので目安になります。収穫したら風通しの良い日陰に最低 7～10 日間置いて、ヘタの切り口を乾かします。



●栽培例 ●まく時期 ■収かく時期

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地				●	●	●	●	●	●	●	●	●
中間地			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
暖地			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●